

令和2年度 第2回習志野市スポーツ推進審議会 会議録

日 時 : 令和2年11月4日(水)午後3時00分から4時30分

場 所 : 習志野市庁舎3階 会議室AB

出席者 : 【会 長】矢坂 英子 (習志野市スポーツ協会:副会長)
【副会長】阿川 幸平 (習志野市スポーツ推進委員連絡協議会:副会長)
【委 員】山口 一 (習志野市体操協会:副理事長)
【委 員】菊地 俊紀 (日本大学:教授)
【委 員】河村 剛光 (順天堂大学:准教授)
【委 員】鈴木 俊哉 (習志野市小中学校体育連盟:副会長)
【委 員】竹田 佳司 (習志野市 政策経営部長)

欠席者 : 【委 員】大沢 亜紀 (奏の杜整形外科:院長)
【委 員】谷藤 千香 (千葉大学:准教授)

事務局 : 生涯学習部 部 長 塚本 将明
生涯学習部 次 長 村山 典久
生涯スポーツ課 課 長 三橋 智
生涯スポーツ課 主 査 田尻 義信
生涯スポーツ課 主任主事 高野 亮
生涯スポーツ課 主 事 宮城 利奈
生涯スポーツ課 主 事 高橋 良介

傍聴人 : なし

議 題 : 第1 会長選出
第2 副会長選出
第3 会議録作成 等
第4 会議録署名委員の指名
第5 報告
(1)習志野市スポーツ推進計画の令和元年度事業評価について
(2)令和2年度生涯スポーツ課事業の現況について
第6 協議
(1)新しい事業評価シートについて
第7 その他(事務連絡等)
第3回審議会の日程について

日時 令和3年2月3日(水)15時00分～

場所 市庁舎3階会議室AB

<議事内容>

第1. 会長選出

互選により、矢坂委員が会長となる。

第2. 副会長選出

阿川委員が副会長となる。

第3. 会議録作成等

会議録については、要点筆記とし、会議名、会議日程、会議場所、出席者氏名、審議事項、会議内容、発言委員名及び所管課名を記載し、非公開の審議事項を除く記録について、市のホームページ及び市のグランドフロアにおいて公開とする。

第4. 会議録署名委員の指名

山口委員、阿川委員とする。

第5. 報告 (1)習志野市スポーツ推進計画の令和元年度事業評価について

【三橋課長】：7月にお送りした資料で、すでにご一読いただいていると思うが、時間が限られるので、本日は生涯スポーツ課の部分を中心にご説明させていただく。

今回の評価は、前習志野市スポーツ推進計画に関する最後の年の評価となる。各担当から上げられたものであり、4月から始まった、新しいスポーツ推進計画の策定前のものの評価となるため、実際には新しい計画に反映されない部分もあるかと思うが、多くの事業は継続事業となっているので、今後の事業の方に生かしていきたいと考える。

事業 No.1「スポーツ推進委員による奨励大会」については、年間5事業を行っているところだが、特に7月に行われたニュースポーツフェスティバルでは、市内の全小学生にチラシ配布を行った結果、雨天にも関わらず多くの参加者があった。

やはり、市民への周知が参加者をより増やすことに繋がる、これが重要な要素だと思われるので、今後の周知方法としても考えていきたい。

事業 No.2「市民スポーツ指導員活動事業」について、指標としている地区活動への参加人数は、3月中に予定していた19事業が、新型コロナウイルスの影響で行われなかったことが影響している。そのため、11ヶ月の数字の結果にはなるが、前年よりは、持ち直した感が見受けられる。しかしながら、この6年間の参加人数を見

てみると、減少傾向であることが読み取れるので、誰もが参加しやすい活動を模索し、理事会や自主研修会等を通じて、地域間の情報交流や、活動の周知方法、広報等の検討を行っていきたいと考えている。

続いて、事業 No.5「総合型地域スポーツクラブへの活動支援」についてである。

こちらは活動の参加者の減少が見られた。これは令和元年度だが、9月、10月に2回の台風の影響と、2月以降、同じように新型コロナの影響が大きかったものと思われる。市内3クラブのうち、特に中央スポーツクラブについては、プラッツ習志野がリニューアルオープンしたため、クラブ側と施設管理者とで連絡を取り合いながら、活動場所をきちんと確保し、クラブの活性化、会員数の増加につなげていきたいということで、生涯スポーツ課としても支援していきたいと考えている。

少しページを飛ばして、事業No.24「ニュースポーツの貸出」についてである。パラリンピックは1年伸びてしまったが、それにあわせてポッチャ等、パラスポーツ用具の貸し出し希望等があるので数を昨年度増やした。そういった形で、多くの希望があるものについては、そのような対応をしていきたいと考えている。

さらに飛ばして、事業No.36、37の「情報発信」についてだが、市の広報やホームページを活用した情報発信は定期的に行うことができた。特に、ホームページは古い情報について更新するよう意識的に取り組んだところである。

一方、ツイッターの利用については、つぶやきがジェフ市原千葉レディースと、オービクシーガールズのトップチームに関するもののみで少なかったことから、今後は利用する場面を精査し、即時性を生かした活用ができるよう、さらに増やしていくことを検討して参りたい。

その他、各担当課が作成した評価については、別冊の通りとなっている。特に、C評価がついた事業についての主な原因だが、やはり、大型台風が2つ到来したという関係で、講座自体が開催できず、参加人数が減ってしまったことと、これまで他のイベントと同時開催していたものを、令和元年度から開催方法を変更した影響により参加者が減少したこと。特にこれは、秋に行っていた「ガス展・農業祭」にあわせて健康診断フェアを実施していたのだが、昨年度、他の福祉部のイベントとあわせてそちらへ移動したため、一緒に実施しなかったということが影響したのではないかと考えられる。

以上で、「習志野市スポーツ推進計画 令和元年度の事業評価」についての報告となる。

【矢坂会長】：事務局から説明があったが、皆さんのお手元に配布したので、一読してきてくださっていると思うが、それでは、ご意見をいただきたい。

【竹田委員】：幾つかお伺いしたいのだが、まず評価は、ABCDとあるが、数値が増加した、減ったというところが、非常にわかりづらい。なぜBなのかな？Cなのかな？というところが見受けられるのだが、率として何割増えた、何割減ったといったような指標はあるのか。

【三橋課長】：今回の評価結果には何%と表記したものは無い。この評価方法については、昨年度からの課題となっており、どのような形が良いかということを探している中で、本日の協議事項にある評価シートの評価方法について、現在考えてい

るところで、その中で皆様からご意見をいただきながら、より納得できる評価方法にしていきたいと考えている。

本日報告した中では、従来、担当課において担当者が主観的に、現状における数の増減状況により判断している。

【竹田委員】：そういう意味では客観的に判断できるような評価シートの方が良いのかなと感じた。

また、シートの内容については後ほど、議題に上がるということなのでそこはさておき、今ご説明のあった37番「Twitter を利用した情報発信」という中で、昨年度は大幅に回数が減っている。ここが減ってしまった要因について、説明いただければと思う。

【三橋課長】：大幅に回数が減少したのは、その前の年に、世界ソフトを開催しており、一昨年はここを中心に多くしていたところである。昨年度については、用意はしていたのだが、どのタイミングでやれば良いのか等、少し慣れない部分もあり、うまく即時性を意識して利用できなかった。

また、アメリカンフットボールの試合を応援していた際に、誰々がタッチダウン等といった細かいところ、選手名等がすぐに分からず、タイミングを逸してしまった。このため、減ってしまったといった反省点がある。

【竹田委員】：情報発信につきましては、くれぐれも的確に、広く行っていただくと良いのかなと思う。

【矢坂会長】：それでは次に、菊地委員にお願いします。

【菊地委員】：内容については特に無いが、一つ教えていただきたいことがある。

それぞれの項目に決算額が毎年載っているが、年度によってばらつきがあるが、予算に対する執行状況というのはここでは議論の対象にならないのか。例えば、使わなかったら次年度に持ち越されるか等、そのあたりを教えていただければなど。

【三橋課長】：決算額については、その事業についての決算額になっており、翌年度に持ち越すことはできない仕組みである。

【菊地委員】：どこか違うところに流用されてしまうということはないのか。

【三橋課長】：各担当課の特殊な事情があって流用するということもあると思うが、原則的にはその事業に予算が配賦され、執行して余った場合、残りは不要額ということで、そのまま残す形である。

【矢坂会長】：それでは次に、河村委員にお願いします。

【河村委員】：評価の点等、いろいろなことで毎年実施しているものについて、基本

的には同じような気持ちだが、先ほど上がった Twitter について、インターネットを介した情報発信という部分は、推進計画の周知とも関連する。

併せてお聞きしたかったのは、コロナの影響が2ヶ月から3ヶ月ほど、昨年度には入っていると思う。今年の2、3月にはもう第一次の流行であったので、全てが中止ということだったと思うが、その点、コロナにおいて工夫されたこと等、少し説明いただきたい。

【三橋課長】：新型コロナの関係だが、次の議題で、今年度の報告に繋がるが、実際に市としては、2月29日から5月31日までスポーツ施設はもちろん、公民館や出先機関も含め利用休止した状況である。前年度の2、3月の状況については、工夫というよりも、新型コロナウイルスがどれだけのものなのか、実態が掴めない中であつたこともあり、感染予防を第一というところで、令和元年度については感染拡大防止のため施設を閉めるという決断となつた。感染を広げないという対応が主であつたため、工夫といった段階にはいかない状況であつた。

【矢坂会長】：それでは、山口委員、なにかご意見あるか。

【山口委員】：特に無い。

【矢坂会長】：続いて、鈴木委員。

【鈴木委員】：評価において、回数や人数が減ると評価が悪くなってきている、といった視点で評価されていると思う。多分、昨年度および今年度に関しては、かなりいろいろな事業に対して回数が減っていたりとか、人数が少なくなったりするかと思われる。その際、今までと同じような評価をすると、大幅に低評価となってしまう可能性が高いが、今年度はどのようにしていくのかお伺いしたい。

【田尻主査】：この後の、協議事項にも関係してくるが、この点は大幅に変えていこうと考えている。他課の状況をお聞きすると、やはり評価の仕方が苦しく、どの事業についても厳しいようである。情報交換をしながらどういう評価をしていけば良いのか苦慮しているところであるが、その苦しい中でも、何か実施できたものについて評価をできるような形を、この後、委員の方の意見もお伺いしながら作っていきたい。

【矢坂会長】：それでは最後に、阿川副会長。

【阿川副会長】：事業評価の部分については、次の協議事項の中でまた出てくるといふことなので、そこで意見させていただきたいと思う。

ただ事業 No. 5や、No. 22について評価の理由というのは、はっきり謳われているかと思うが、他のものについては、なかなか一概に言いきれないところがあり、具体的にぱっと見えない感じがする。

例えば事業 No. 5であれば、令和元年度で参加者が減少しているという点については、原因として9月、10月の台風に加え、2月からの新型コロナ感染症の影響が

考えられるということで、前年の期間においては月別の参加者が例年並みであったので、これをBとした。こういった形であれば、我々が見ても「なるほどな」と理解できるので良いかと。しかし、他のものについては、なかなかそういう評価が難しかったのかなと思うが、事業 No. 22も同じような形で謳われているので、このように書かれていると非常に理解しやすい。通所型介護予防事業について、これも新型コロナの関係でこうであったと謳われているので、我々にも判断しやすかった。

それから、もう1点、事業 No. 26について、体力・運動能力測定事業だが、これも次期計画に向けての改善点や留意点が一番下に記載してあるが、本事業が継続される場合は、本市において実施していくと。また、一般の参加者が参加できるような工夫を検討していくということだが、予算も絡んでくると思われる。

実をいうと、私はこの事業に市民スポーツ指導員の立場で参加させていただいたが、一般の方は、なかなかこういう測定ができない方もいると思う。予算も関係してくるかと思うが、できれば是非、一般の皆さんもこのような事業に参加させていただいて、自分の運動能力の立ち位置みたいなものがわかると、市民の方にとって非常にプラスになるのではないかなと。できれば、その点を次期計画の中でも謳われている事業であるので、一般の方も参加させていただければと思う。以上である。

【矢坂会長】： 広報の仕方、これは常に考えていかななくてはならないことであるため、委員の皆様にもまた、こうして意見を頂戴しながら作成していきたいと考える。

全体的に他に何かご質問はないか。なければ次に移りたい。

それでは、令和2年度生涯スポーツ課事業の現況について、三橋課長、説明をお願いします。

第5. 報告 (2) 令和2年度生涯スポーツ課事業の現況について

【三橋課長】： 例年、この時期の会議では報告しないが、今年は新型コロナウイルス感染症の関係もあり、本市のスポーツ施設の運営についてどのように行っていたかを含め、今回あえてご報告させていただくものである。

なお、例年だと「する」「みる」「支える」の順でご報告するところであるが、今回は時系列を理解する上で、施設の閉鎖状況を先にご報告させていただいた方がわかりやすいかと思ったので、先に「支える」スポーツの部分をご報告させていただく。

「1. スポーツ施設の管理運営」では、市内の公共施設について、令和2年2月29日以降、利用を5月31日まで休止し、基本的には、屋外の施設は6月1日から、東部体育館については、換気関係の確認・利用人数の制限・利用にあたっての諸注意の周知を検討した上で6月16日から、また、館内2階にあるトレーニングルームについては、衝立を作る等した上で6月25日から利用を再開している。

なお、袖ヶ浦体育館については、工事の関係で9月末まで利用を中止していた。再開にあたっては、各施設で消毒液・手洗い用石鹸の配備、受付場所のビニールでの衝立設置、利用にあたっての注意事項の掲示や、パークゴルフ場では一度に入場できる人数を制限する等、対応をとっている。

それ以外にも、一部の施設では換気の問題から、更衣室やシャワー室等で、3密対策が行えない施設については部分的に利用制限しているところもある。

8月後半から、国によって制限が緩和され、本市でも秋の市民総合体育大会の時期となっているが、各主催者で開会式や閉会式を簡素化したり、無観客開催としたり等、大会自体の規模を縮小して開催している種目もあれば、競技の特性によっては対策が難しいことから今年度大会を断念した団体もある、といった状況である。

また、「支える」スポーツの「3. スポーツ施設改修の民間活力の検討」だが、ご報告させていただいた、秋津公園内にある野球場・サッカー場・多目的広場が建築後約40年経過しており、その改修方法について、民間のノウハウや資金を活用できないか検討を行っている。

現在、関心がありそうな事業者との面談を行う等、その可能性の調査を行っているところである。2月末には報告書ができてくるので、その際には、本審議会でご報告させていただきたい。

次に「みる」スポーツである。今年度予定されていたオービックシーガルズのXリーグ、千葉ロッテマリーンズのイースタンリーグ、女子サッカーのなでしこリーグ、こちらの本市での開催はすべて中止となっている。

各スポーツ、競技自体は現在行われているが、観客の密を防ぐ対策が、完全には難しいということから、実施は見送られたものである。

最後は「する」スポーツである。「1. スポーツ奨励大会」は、感染拡大防止の観点から、今年度はすべて中止とした。

「2. 市民スポーツ指導員による地区活動」も、不特定多数を集めることが多いものであり、基本は自粛としている。しかしながら今年度、何か一つぐらい指導員としての活動をしたいという意見があったので、例年1月末に行っているスポーツ講演会について、例年は市庁舎のグランドフロアを使用していたが、今回プラッツ習志野の市民ホールを使用し、感染防止対策を行った上で実行することとした。

その他では、「7. 学校プール開放事業」、こちらの事業委託を依頼する期限が5月末時点であったが、その時点では感染防止対策が難しいことから中止とした。その他については学校含め、施設の再開後は、各団体等で感染防止対策を行いながら、再開している状況である。

【矢坂会長】：ただ今、事務局より説明があったが、委員の皆様、ご意見等あればお伺いしたい。例年とは違い、前半は何もできない状態であったので、担当課としても色々と苦労したと思われる。

しかしながら、こういったことは今後あるかもしれないので、それを生かしながら、また考えていきたいと思う。

はい、菊地委員何か。

【菊地委員】：参考までに教えていただきたいが、私の大学ではコロナの流行に対して現在も非常に敏感になっている。例えば、大学に学生を入れる際の基準のようなもの、これは市としてどのように定めているのか。

【三橋課長】：施設の利用については、施設予約をして利用するのだが、再開するにあたり、こういったことは守ってくださいというものを館内等に掲示している。職員がいるので、利用者はその職員へ名簿の提出と、検温を実施する。

また、非接触型の体温計を各施設に1台ずつ提供している。大会等で利用者が多くなる際には、臨時で新たに貸し出しする形で対応をお願いしている。各大会時には、事前にいつ、誰が利用するのかが分かるので、各団体には過去2週間の体温管理も確実に行っていただく。

そして当日の体温チェック、連絡先を記入したリストを提出させている。その際、利用者から厳しいという意見は当然あったが、これはどうしても必要なことである旨を、お願いしてご理解いただいた上で使ってもらおうという形でやっている。

【矢坂会長】：それでは日程第6. 協議事項に入りたい。新しい事業評価シートについて、事務局 田尻主査、説明をお願いする。

第6. 協議 (1)新しい事業評価シートについて

【田尻主査】：資料の8ページをご覧ください。先ほどからいくつか指摘を受けているが、今回、新たな習志野市スポーツ推進計画が策定されたことに伴い、事業評価のシートについても新しいものに改善をしていきたいと考えている。

令和元年度評価シートでは、全45事業について、前年度との数値比較で、A～D評価をしていたが、単純に前年度との数値比較だけでは評価できないということが、指摘されていたところである。

そこで、新しい事業評価シートでは、他課の評価シートを参考にしながら、一つ目は、事業目標、目標値を明記すること。そして二つ目は、単に数値に対する評価だけではなく、評価する年度の事業目標、その記入欄を設けた。今回は、令和2年度事業目標になる。最下段に、令和3年度事業目標があり、来年度の評価シートのこの欄に、令和3年度の事業目標として反映することになる。

今年度の成果や課題をふまえて、次年度の事業目標を設定、一番下の欄に記載するという流れになっているので、基準値というものを今回、中に設けたのだが、基準値から目標値を設定して、実績と比較できるようにした。基準値は、基本的には令和元年度の実績を記載することを想定している。令和元年度の実績が基準となって、目標値を決めるという。目標値は、計画最終年になる令和7年度時点での目標数値を入れることを想定している。

そして、実績の遷移がわかるように、6年間分の枠は従来通りに残しているところである。

それから、三つ目の評価欄になる。成果と課題、事業達成度の枠があるが、中でも事業達成度の欄が、前評価シートの「評価」の欄にあたる。

主だった変更箇所は、以上の3点となる。

令和2年度は新型コロナの影響で、実施できない事業がある中で、ただ単に「実施できなかったから」「人数が減ったから」という理由でC 評価になるのではなく、そのような中でも、事業に取り組めば、目標に近づくことができたといったようなことを考慮して評価をしていただきたい。その点もふまえ、委員の皆さんにご意見をいただけたらと思うので、よろしくお願ひしたい。

【矢坂会長】：単純な意見だが、前回のものと今回のもの、両方を配布した方が見

やすかったような気がするが。また、今回の改善した点を網掛け等マーカーしてくれていると、意見が言いやすくなるのではないか。

それでは、竹田委員お願いします。

【竹田委員】：まず、評価シートそのものに事業目標、そして計画値というものを上げたことについては、望ましいスタイルだと思う。

また、この評価シートそのものは今までだと、計画期間が1枚ですべての評価が見られたのだが、今回のものは、単年度ごとに成果・課題を見ていくこととなる一方、実績だけは6年間分が振り返って見られるとは思いますが。そういう理解でよろしいか。

【田尻主査】：そうである。

【竹田委員】：そうすると、評価シート(案)に入れた中段以降、下段の方で、令和2年度の成果・課題、一番下には3年度の目標というところが、翌年になるとここが3年度の成果で、4年度の目標ということとなって年度ごとに1枚ずつ増えていくと。

様式的には、使ってみなければ何とも言えない部分もあるが、そもそも、その目標値の設定について現時点で、令和2年度から7年度までの目標値というものはすべてもう出ているのか。そこをまずお伺いしたい。

【田尻主査】：新しい習志野市スポーツ推進計画の中で、最終的な目標値というのが、それぞれ「する」「みる」「支える」のスポーツで、数値が決まっておき、それを目標に各事業の目標値の方を、設定できたらと考えている。しかし、数値達成に関して、大きく目標値を立て過ぎても難しい部分もあるかと思われるので、それぞれ各担当課で検討していただき目標値を決めてもらう。それぞれの課で考えていただくことだが、基本的には、スポーツ推進計画で立てた目標値に向かって、各事業の目標値を立てていきたいと思っている。

【矢坂会長】：はい。竹田委員どうぞ。

【竹田委員】：目標値そのものについては、やはり今年度から計画期間が始まり、いきなり下方修正するというのも非常に難しいのだろうと思う。ぜひ、その評価や課題の中で、目標はこうだけれど現実はこちらだ、というようなところからきちんと with コロナという中での評価としていただきたい。

【矢坂会長】：他に何か。河村委員どうぞ。

【河村委員】：今、ご意見があったが、6年間まとめて見られるというのは字が小さくなってしまふ恐れはあるけれど、結構良いところだったかなと思うが、これが6枚増えることによって、最終的なその推進計画に対する評価という時に、書類上は結構大変になってしまうこともあるので、毎年、比べて見られる点では、前回の方が良かったのかもしれないというのが一点。

コメントとして、数値に関しては、数値だけじゃないという意見について、もちろん

そうだと僕も思うが、推進計画に数値を出してしまっている以上、数値目標は多分、この先6年、7年、計画を変えるまでは気にしなくてはいけないことだと思う。計画を立てた後のコロナというところなので、そこはコロナを踏まえた上で修正するというのは必要だとは思うが、数値はやはり入れざるを得ないのではないかと。そして、その数値に対して「減った」「増えた」において、その理由を書けば良いと思う。なぜBなのか、なぜCなのかということが書かれていれば、1年間或いは6年間共通して、こういう基準で評価しましたということが、明記されていれば良いかと。

【矢坂会長】：河村委員から良い意見が出たと思う。理由を書いて、数値を達成していなくても、理由を記載すればいいのではないかと。今年度にたくさん書くよりも、毎年の方が、良いと思う。検討の余地があると思うので、そこはよろしく願います。

【菊地委員】：習志野市スポーツ推進計画の配布されたものを今見ているのだが、それぞれの「する」スポーツ、「みる」スポーツ、「支える」スポーツとして、ここで何%ってというのは3つ挙げたけれど、その他の細かいものとしては、例えば、今のシートの案で、基準値に対しても目標値はあるということで良いか。令和2年度から令和7年度の目標は12,000人なのだが、中間というのはないわけで、中間目標というのは、そういう数字としては全部出してないという考えで良いか。

【矢坂会長】：推進計画に出ているのは、最後の目標値だと思われる。途中はないと思うので、全て含めてである。

【三橋課長】：最終年度の前年にアンケートをもう一度取った結果から、ゴールをそこに定めているという形であるので、中間は定めてない。そして、今回の評価シートは、昨年この会議で、「評価の仕方」について課題をいただいており、どうしたら良いだろうと、考えて臨んだ。

他市ではどうしているのか近隣市にも相談したが、近隣市も「良い評価方法が無い…」というところであった。しかし、それでも考えなくてはと。

何も無いまま提案しても皆さんからのご意見をいただきづらいので、我々で考えて今日まず案としてお示しし、そのあと次の2月に向けていろんなご意見をいただきながら、精度の良いものを作りたいと本日考えている。

そのため、今日この場のみならず、今後メールや電話等でも構わないので、良い方法があれば、ご提案をお願いしたいところである。

【矢坂会長】：それでは委員のご意見を頂戴して、それを踏まえて、事務局でたたき台を作れば良いと思うので、皆さんから意見をいただく。

鈴木委員、願います。

【鈴木委員】：今年度から令和7年度までに向けて、基本計画の目標値が定められていると思うが、達するまでの取組内容みたいなものはしっかり検討していかないと、最終的な目標値には達成できないのではないかと考える。

【阿川副会長】：今、鈴木委員がおっしゃったように目標値が、令和7年度、例えば、基準値を令和元年の11,490人とした場合に、令和7年度は12,000人というのは、この計画でいうとほぼ60%に近いものである。そうとは言えないだろうか。今回は、あくまで参考なのか。

【田尻主査】：今回はざっぱくというか、見本として記載したものである。

【阿川副会長】：そうすると例えば、今1枚での評価シートであるけれども、「する」スポーツという事業からいえば、まだまだたくさんある。これらの全体のものが、基本的には目標とする60%ということがあって、目標設定をしていこうということになるのか。

基本的には例えば、そうしていった場合に、どうしても諸般の事情で、途中でやはり変更せざるを得ないということが、鈴木委員と同じような意見になるのだが、そういうことも考えられるので、それも考慮していただければと。

あともう一つ、細かいところで申し訳ないが、この評価シートのところで、最上部の、前計画では確かに事業名という項目になっていたと思うが、今回の新規のシートでは、取組名と確か言っている。事業という言い方でそのままなのか、或いは計画にあわせて取組名という名称にするのかを考えていただけると。

【田尻主査】：事業名というところで、確かに取組名と書いてあったのだが、どちらが良いのか少し悩んだが、わかりやすさからして、今回は「事業名」とさせていただいた。また少し検討したいと思う。

【矢坂会長】：その他、委員の方ご意見は。

急にいろんなことを変えるのではなくて、前回からの良いところをきちんと汲み取って。一番良いのは1枚で、自己評価も他と一緒にいろんなことを話し合いながら校正していただければ、さらに良いものができるのではないかなと思う。

その辺は委員の方、特に何かと事務局が色々大変だと思うので、良いアイデア出していただければと思う。事務局の方に、こうしたら良いと思いますよ、ということで作って持ってきていただければ事務局が大変助かると思うので、今日、谷藤委員も大沢委員も欠席のため、お二人にもお願いして、皆さんが見やすく、理解ができるような評価シートにしていきたいと思うので、その辺も踏まえて、事務局よろしいか。

【田尻主査】：はい。

【矢坂会長】：委員の方の意見を参考にしてください。

はい、河村委員。

【河村委員】：具体的に、その評価する中身になってくると思うのだが、次の審議会が2月。もう本年度が終わってしまうので、その後半何をすのかなと。

中止、中止と来て後半はどういうふうに、先ほど少し質問させていただいたが、工夫というか with コロナの中でどうされるのか、教えていただきたい。

【三橋課長】：今後の市の事業の方でよろしいか。

【河村委員】：はい、生涯スポーツ課としての取り組みを。

【三橋課長】：先ほどもお話をさせていただいたが、推進委員の部分については、今年度は中止ということ。

ただ、with コロナについては、まだ今後ワクチンがいつできるのかが、未定の状況である。その中でも、また来年度も始まり、来年度の5月、6月に毎年実施している奨励大会、これをどんな形で実施していこうかという検討を現在考えているところである。できる限り、生涯スポーツ課としては、実施したいところだが、無理は避けたい。ただ、工夫の仕方で行える方法はないか。もう少し時間があるのでまだ考えようということで先月だが会長・副会長を集めて話をしたところであった。

市民スポーツ指導員の地区活動については、そろそろ、やり方さえ考えればできるのではないかということで、各地区から相談を受けており、無理をしてまでお祭りのようなものは難しいとお伝えした。ただ、外でやるスポーツで、大体いつも固定されているメンバーで、密にならないようなものであれば、やれるだろうと相談を受けながら、やっていこうというので、全く無しというよりは、様子を見ながら実施できるようなところは、当課と相談しながらやっていく。

そして、なるべくこの状況の中でもやれるものは、以前のようにとはいかずとも、対策を取りながら実施していこうかというところで、相談を受けつつ確認し合いながらやっているところである。メインの事業については、今年度1月、先ほど申し上げた市民スポーツ講演会をいつもとは違う広い場所で、やり方を工夫して実施する予定である。

【河村委員】：矢坂会長から何回かあったが、広報において、デジタルとかオンラインとかというのは今やらないと、というか、今できることだと思うので。

この状況で多分ツイッター等の広報ができないとなると、元に戻った時にはもう多分できないと思うので、我々も、先生でもそうだと思うのだが、ほとんどオンラインでやっているの、ピンチはチャンスだと思って、ぜひ色々やっていただければと思う。

【三橋課長】：Twitter についてちょうど、今週末からオービックシーガルズがやっ
と開幕するので、そちらの方で Twitter を活用していこうと考えている。

やはりイベントがあるものは発信していかないと、本当にやっていかないまま今年終わってしまうとは思っているの、遅ればせながら実行していく。

そう言えば、この間サッカーも大会があって、サッカーでもTwitterをやれば良かったなと、最近反省している部分もあるが、できる部分はすぐ見つけて、広報していきたいなと思っている。

【矢坂会長】：推進計画については、それぞれの担当課やそれぞれの所轄団体とか、そちらの方でできる部分は推進していくと思うので、それは良いと思う。ただ、今後のことについては、来年度の審査があり、来年までいろんなものを持ち越して

も行けないと思うので、今日の皆さんのご意見を事務局の方で評価シート含めて、まとめていただき、委員の方へ送って、そして、再度ご意見を頂戴して、また修正を重ねていけばと良いと思う。その点、お手数だが事務局頑張っていたきたい。

後、その他に委員の方々何か意見は。

【鈴木委員】：評価シート以外でよろしいか。

【矢坂会長】：はい、鈴木委員どうぞ。

【鈴木委員】：今年度コロナ禍の状況で、各団体の大会が中止になったり、或いは少し緩和されて、競技団体がコロナの対策予防をして大会を開いたりしているところがあると思うが、例年であれば、習志野市や教育委員会から共催や後援をいただいて大会を開いていたわけだが、今現在そういうのは、各競技団体の方の独自の大会という形で大会を進めていると思う。

これは、この先どのような状況になっていくのか。もう今年度は一切そういう、共催や後援は無いということによいか。

【矢坂会長】：後援はしていると思うが。

【三橋課長】：後援は再開している。

共催については、今年度は、しないという話だったかと思われる。ただ、共催はしないが、競技においては会場を市の施設を使っている。そこについては今、習志野市スポーツ振興協会に管理委託をお願いしているので、各団体にこれまでと変わらない効果があるよということ、使用料等については、大丈夫なようお話をして今年度は実施している状況である。

来年度については、共催等をどうするかというのは現時点では答えようがない状況である。今年状況、施設面の利用等については変わらないといった不都合が無いような形はするつもりでいる。

【鈴木委員】：例えば、小中学校の大会でいうと小中体連が主催で取り組んでいるわけだが、その小中体連としての共催が今、行われてない状況で、大会を進めているので、一切小中体連としての賞状を出していないというような状況なのである。賞状の中には、各専門部というような名前での賞状だけなので。できれば、子供たちにしてみれば、小中体連の会長の名前が載った、あるいは教育長の名前が載った賞状をもらえるのが嬉しいのかなと考えている。

【三橋課長】：共催では無いから出せないというわけでは無く、小中体連の主催者が賞状を出すのは、問題はないかと。

それは主催者であり、共催ではない場合、教育長の名前をとというのは主催が違うのでどうなのか、違うのではないかなという感じはする。ただ、来年度のことなので、共催関係が今後OKかは、私の立場でこれ以上はこの場でお答えできない。

【鈴木委員】：承知した。

第7. その他（事務連絡等）

【三橋課長】：それでは今後のスケジュールについてご説明する。

次回のこの審議会は、令和3年2月3日水曜日15時から、本日と同じこの場所での開催を予定している。以上。

【矢坂会長】：以上、本日の審議회를閉会とさせていただきます。

閉会